

# Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

27(通巻31号)

平成19年3月14日発行

## 【目次】

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【28】 .....	1
二度あることは三度ある。正しいレファレンスインタビューと事前調査把握のススメ。	
こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【19】 .....	2
日本の漫画文化を調べる～『現代漫画博物館 1945 - 2005』(小学館)ほか	
市町村のみなさんからの発信 【17】 .....	3
図書館への信頼を築くレファレンスサービスを実現するために 市立釧路図書館 高木真美さん	
Librarian's Box(ししょぼこ) 【16】 .....	4
データベースの紹介『日本古典籍総合目録』『日本法令索引〔明治前期編〕』+	
こんなことしました <New・連載> .....	5
【1】新しい図書館の3つの取り組み 帯広市図書館 横山瑞穂さん	
【2】書を抱え、外へ出よう - レファレンス事例集の活用 - 旭川市中央図書館 稲荷桂司さん	
レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介(2006年10月～2007年2月分) .....	7
News .....	8
1 貸出文庫目録をホームページで公開!	
2 一般件名「らい」を「ハンセン病」に修正	
3 「医学情報を詳しく解説する連続講座」第3回に参加!	
4 北海道大学附属図書館 新サービスの試行提供開始!	
5 著作権法改正案が2006年12月22日に公布 2007年7月1日から施行!	
6 国立国会図書館の複写・貸出申込 ゆにかねっと経由申込が3月末で中止に!	
創刊30号特別企画	
『Do-Re』そもそもの記 北海道立図書館北方資料部長 樋山 ミチ子 .....	9
『Do-Re』とレファ研に関するアンケート 結果報告 .....	10
ご協力願います!! .....	16
編集後記 .....	16



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - 【28】

二度あることは三度ある。正しいレファレンスインタビューと事前調査把握のススメ。

受けた質問には質問者がすでにしっかり調べていてもわからなかった場合があります。「あちらでは駄目だったが、ここに聞けばわかるかもしれない」と、調査の不足を補完するため、別の所へ聞くこともありえます。つい見落としがちですが、調査済みかどうか、その内容はどうだったのかをしっかりと把握しておけば、調査の重複を避けるなど、その後の進展が大きく変わることもあります。

9月13日 参考調査課のAが昭和19年から22年の官報の目録を開き、何やら調査をしていました。どうも調査結果は芳しくない様子でした。

9月14日 C図書館から所蔵調査を受けます。「昭和27年の商工信用録（東部版）の〔道立図書館〕所蔵を調べて欲しい。あれば、『B株式会社』の記載があるかを知りたい。」という内容でした。

当館で所蔵していましたが、記載なしの回答となりました。その経緯でC図書館が「実はB株式会社が何年になくなったかを調べている」ことを聞きました。すでにある程度調べていることということでした。この段階で何に基づいて得た情報なのか、もっと踏み込んで確認しておくべきでした。C図書館からの話では、商工信用録のバックナンバーから、おそらくは昭和20年から27年の間でなくなったことまでは絞れたが、昭和27年の商工信用録に記載があるかは、国立国会図書館ではこの時点では確認できなかったのを知りたい、ということでした。

引き続き「B株式会社がいつなくなったのか」という質問として、調査続行です。B株式会社の社史や関連資料を探しましたが、ありませんでした。次は官報の決算公告（または解散公告）を探すのかと覚悟したとき、前述のAが「B株式会社」の決算公告を調べていたのを知りました。依頼者はまったく別の機関Dからです。やはりB株式会社の解散時期を調べているそうです。昭和19年から22年までの官報には載っていない。昭和22年に見つかったのは同名の別会社だったということでした。

ここで、先に調べていたAから、国立国会図書館のレファレンス協同データベースにB株式会社に関するレファレンス事例が掲載されていることを知らされました。

「1922年（大正11年）にX町に土地を所有していたB株式会社の概要。」という事例です。

その調査内容はC図書館から聞いた内容とまったく同じでした。つまり、C図書館はこのレファレンス記録を見ていると考えられます。その記録では、商工信用録以外にもたくさんの資料を調べており、調べてない資料は官報と貸出中で見ることのできなかった昭和27年の商工信用録ぐらいです。おそらく、機関Dも同じ道をたどり、当館に照会したのでしょう。C図書館は商工信用録から、機関Dは官報から当館へ問い合わせたのです。パズルのピースがすべてはまったような気がしました。この事例の登録は5ヶ月前の4月12日とあります。これは、同一の質問者が色々な機関に照会を出し、なおかつ、照会を受けた機関がそれぞれ他館へ照会をしていて錯綜しているのでしょうか。タイムラグと事例があるということを考えると、すでに国立国会図書館に照会した図書館がC図書館、機関Dの他に存在しているはずですが。

まったく同一の調査を課員2人が調べるという二重調査となりましたが、「国立国会図書館に照会を出さなくてよかったー」と言い合い、お互い胸を撫で下ろしました。

この事例の回答を元にC図書館には昭和19年から26年にかけて載っている資料は見つからなかったと回答しました。会話が終わるころ、つぶやきが聞こえました。「そうすると、次は官報を……」。「別の職員が調査済みです！！」

調査結果は調べた経緯をきちんと説明した上で回答するのが大切です。

<連載>

## こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - 【19】

日本の漫画文化を調べる ~ 『現代漫画博物館 1945 - 2005』(小学館)ほか

海外では「MANGA」と呼ばれ、世界中で人気のある日本の漫画。今回は、その漫画文化を調査・研究するのに役立つ資料をご紹介します。

『現代漫画博物館 1945-2005』(小学館 2006.11 427p 22cm) 請求記号:726.1/G  
[右写真]

戦後から現代まで、国内の主要な漫画賞を受賞した作品および時代を代表する作品約750タイトルを5章に分け、図版付で解説しています。

各章巻頭にあるカラー口絵では、日本漫画の多様な発展の歴史を紹介。巻末には、作品と漫画家別の索引付き。別冊の資料集には、漫画作家人名事典、漫画賞受賞作品一覧、現代漫画史年表を収録。今後、日本漫画を研究する上で欠かせない資料です。



『Comic catalog 2007』(福家書店 2006.11 1117p 21cm) 請求記号:726.1/K0/H19  
2006年9月までに発行されたコミックや漫画文庫、イラスト集、アニメ等を、著作者別目録、書名索引で構成。著作者は約5700人、出版社は189社を掲載。この目録は毎年刊行されていて、出版社で現在取り扱いのある作品がわかります。

『漫画家・アニメ作家人名事典』(日外アソシエーツ 1997.4 497p 22cm)  
請求記号:726.1/MA

戦後、作品を新聞・雑誌に掲載あるいは劇場公開・テレビ放映したことのある人物1890人のプロフィールと作品名を収録。生年、デビュー作、受賞歴、コミックスの書誌データや参加した映画、テレビ作品などを記載。主要雑誌連絡先一覧付き。漫画家の他に、アニメーション作家のデータも豊富で、ともに世界で評価が高まる両分野を調べるのに便利です。

### 【Column】世界に広がる日本漫画

近年、日本の漫画やファッション、ポピュラー音楽などのポップカルチャーが世界中で人気となり、歌舞伎や能などの伝統的文化をしのぐ勢いで各国に浸透し、国際的な文化交流の大きな力になっているというニュースをよく耳にします。

ユネスコのデータベース「Index Translationum」によると、2006年9月現在、世界で最も翻訳されている日本人作家は、『ドラゴンボール』で有名な漫画家・鳥山明だそうです(2位は三島由紀夫)。また、「日本のマンガやアニメが人気の国では、それをきっかけに日本に興味を持ち、日本語を勉強する外国人が増えている」そうです。(集英社『イミダス 2007』の別冊付録『国際比較「日本力」』p.25「日本マンガの普及力」より)

この世界的な人気に日本の外務省と文化庁も注目して、漫画による文化発信を本格的に策定しはじめました。昨年11月には、養老孟司・東大名誉教授を館長に迎えて、全国初の漫画総合博物館「京都国際マンガミュージアム」が京都市にオープンしています。

さらに今年1月、フランスのアングレーム国際漫画フェスティバルで、水木しげるの漫画『のんのんばあとオレ』が最優秀コミック賞を受賞するという朗報も届きました。

戦後に発展した日本漫画が、今や国際的に評価される時代になったようです。(T)



## 市町村のみなさんからの発信 【17】

図書館への信頼を築くレファレンスサービスを実現するために

市立釧路図書館 高木 真美 さん

「図書館のプロが教える<調べるコツ>」(柏書房)という本をご存知だろうか。その中の架空図書館「あかね市立図書館」では、個性豊かな図書館員たちがプロらしい奮闘を繰り広げる中から、数々の調べもののテクニックを伝授してくれる。図書館員としては、「あかね市立図書館」のように豊かなレファレンスサービスができたならと思わずにいられない。

しかし、現実には厳しい。「あかね市立図書館」のように図書館スタッフを専門職として長期間にわたって、何人も配置できる状況にある図書館はどれくらいあるのだろうか。自治体の他部局から図書館に人事異動でやってきた職員が数日後からカウンターに立ち(筆者自身が実際にそのような体験をしている)、数年で異動していくという館もあるはずである。そのような図書館ではレファレンスサービスに欠かせない知識やノウハウが組織に蓄積されにくい。図書館に配属された個人に知識やノウハウが蓄積されたとしても、その職員の異動とともに失われていく。それを組織として蓄積するためには、優れた伝達・情報共有のしくみと相当な時間が必要だからである。

このような困難な状況にある図書館は、自館だけでレファレンスサービスのレベルを維持することは難しい。だからこそ、バックアップしてくれる道立図書館はありがたく、頼りになる存在である。

一方、道立図書館に公式にお願いするほどのものでもなさそうだが自館だけでは解決に時間がかかると思われるレファレンスや、通常の手順を踏んでいては間にあわないレファレンス、あるいはこんなことを聞くなんて図書館員として恥ずかしいこと?と照会をためらってしまうようなレファレンスなどがあることも事実である。

そこで、「こんなのがあったらいいな」と思うレファレンスツールを考えてみた。その名は「お気軽レファレンス協力メーリングリスト」。それは、図書館員でメーリングリストをつくり、情報交換に役立て助け合うというものである。メーリングリストなので誰かが確実に答えてくれるとは限らない。回答の得られないものもあるだろう。答える義務をもつ者もない。ゆえに個人に負担がかからない。わかる人がわかることを、時間の許す範囲で情報を提供し、協力し合うのである。また、回答者はその責任を追求されない。応援を求め、問いかけをした図書館員が得られた情報を参考に判断する。インターネット上のサイトで似たようなものがあるが、図書館員のメーリングリストは確実な資料を背景としている意味で信頼性が違う。同じ地域の図書館員ならば、郷土資料に関しての情報も提供しやすい。事例が蓄積すれば、地域独自のレファレンス共同データベースができる・・・ということも期待できるかもしれない。

浦河町立図書館の小野寺信子さんが「もっと図書館をPRしよう!」(第30号 Do-Re 掲載)の中で、「アメリカと日本のレファレンス件数の違い。それはやはり図書館に対する信頼度の違いなのだ。」と述べていらした。そのとおりだと思う。ならば、図書館員が館を越えて手をつなぎ、協力しあい、館の規模や蔵書数に関係なく、質の高い迅速なレファレンスサービスを積み重ねることで、少しずつ図書館への信頼を獲得していくことができないだろうか。つまり、図書館に対する信頼を各図書館という「点」ではなく、図書館同士の協力により地域という「面」として築きあげていくのである。

語るだけではなく、できる範囲から有志を募り、実際にメーリングリストの活用をはじめてみたいと思う。人と情報をつなぐことに情熱をもつ図書館員の方々とともに成果を共有し、図書館が真に豊かな地域づくりに必要不可欠であると広く認識される日がくることを願いながら――

## Librarian's Box (ししょぼ) 【16】

-データベースの紹介- 『日本古典籍総合目録』『日本法令索引〔明治前期編〕』 +

レファレンスの情報源として、インターネットが重要な位置を占める中、次々とデータベースが公開されています。今回ご紹介するのは、『日本古典籍総合目録』『日本法令索引〔明治前期編〕』、そして、現在進行中の『古事類苑』。いずれもリアルタイムの資料から日本の歴史・文化をとらえる基本のツールです。使い方を知れば力強い味方となります。

次の2つは当館リンク集 "Do-Links" から参照できます(「和古書・漢籍」「法令・条例」)。

日本古典籍総合目録 (2006年12月27日より)

日本の古典(国初から慶応3年まで)を知る基本ツールの1つである『国書総目録』の継承・発展をめざし、国文学研究資料館が従来の『国書基本データベース(著作編)』と『古典籍総合目録データベース』を統合・拡張して公開しているものです。冊子体刊行後に追加した著作等も収録されています。現在、著作約452,000件、著者約67,000件、書誌約426,000件が提供されています。資料のヨミが分からなくても、また、別書名からでも検索が可能なので便利です。

例)『沢庵和尚法語』の別書名『実理学捷徑』『天地陰陽人身和解』『沢庵和尚物語書』からの検索など。

国文学研究資料館(日本古典籍総合目録)

[http://www.nijl.ac.jp/contents/d\\_library/index.html](http://www.nijl.ac.jp/contents/d_library/index.html)

日本法令索引〔明治前期編〕(2007年1月22日より)

国立国会図書館では以前より明治19年2月公文式施行以降の法令について、冊子体の『日本法令索引』、データベースにおいては、最新の法令まで公開していますが、今回これをさらに拡張して、慶応3年10月から明治19年2月までに発令された太政官布告等の沿革情報が検索できるようになりました。『法令全書』を中心に『太政類典』『法規分類大全』ほか約70点の資料から、約44,000件の法令を採録しています。『近代デジタルライブラリー』に収載されている場合は、各法令の索引情報からリンクして法令の本文も参照できます。

例)キーワード検索欄に「平民」「苗字」を入力すると明治3年9月9日太政官布告で、平民に苗字が許されたことが分かります。

国立国会図書館(日本法令索引) <http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/>

現在進行中のデータベースとしては、次のものがあります。

古事類苑の電子化プロジェクト

明治29年から大正3年にかけて刊行された官選百科事典です。歴代の制度・文物・社会全般などを天・歳時・地・神祇・帝王・政治・法律・文学・遊戯部など30部門に分類し、さまざまな故事来歴など(例:復讐の制度や三味線の製作、綿の産地などもあり)が掲載されています。あらゆる書籍・古文書などを慶応3年以前の基本的な文献(『類従国史』『和漢三才図絵』など)から厳選して原文のまま掲載、簡単な説明も加えてあり、活用範囲が広い資料です。本文1000巻、約7万ページにもわたる資料で、現在天部のみを試験公開しています。全ての公開が待ち遠しいデータベースの1つです。

電子化古事類苑プロジェクト(国際日本文化研究センター山田奨治研究室ウェブサイトより)

『古事類苑』天部 HTML版 <http://www.nichibun.ac.jp/~shoji/kojiruien-test/ten/>

## こんなことしました 【1】

新しい図書館の3つの取り組み

帯広市図書館 横山 瑞穂 さん

新図書館がオープンして、ちょうど1年を迎えます。えっ、もう1年？新システムの導入や新事業の取り組みなど、ひとつひとつ手探り状態で常に検討・改善の繰り返し・気がつくとも1年が経過していたというのが実感です。新しい図書館だからこそ、市民からの期待は大きく、約35万冊の図書や雑誌・AV資料などの膨大な情報をいかに発信していくか。そして、今求められている情報と図書館の役割を考えながら、この1年間様々なことに取り組んできました。

最近よく耳にしますが「課題解決型」図書館。これは公共図書館として生き残るためには不可欠な役割だと思います。そのためには職員のレファレンス能力を高め、そして利用する市民の活用レベルを向上させていくことが大切です。いま一番大切なのはレファレンス業務といっても過言ではありません。私自身、配属になるまで、図書館をほとんど利用したことはありませんでした。やはり本を借りる以外の利用方法を知らないことが一番の原因だったと思います。市民が図書館で気軽に資料の相談ができるということがわかれば、もっと図書館に興味をもち、足を運ぶようになるのではないのでしょうか。

そこで帯広市図書館がレファレンスサービスの一環として取り組んできたことを、ご紹介したいと思います。

まずは「広報誌」について。

どの図書館でも作成しているとは思いますが、新図書館オープンを機に、本の紹介と行事案内だけではなく、「レファレンスサービス」を知ってもらうための特集を始めました。その名も「れっつ・れふぁれんす」。レファレンスサービスって何？から始まり、リクエストサービスの紹介をしました。この広報誌はHPに掲載するばかりではなく、市内の各施設等にも配置しました。広報の成果があった？せいか、レファレンス専用カウンターには新規の利用者からの相談が増え、最近ではビジネスに関するレファレンスも寄せられています。来年度もレファレンス強化作戦を続けたいと考えています。

続いて、「食育」について。

農林水産省が推奨している「食育」。今関心が高いテーマのひとつですよね。帯広市図書館では、特色として「食」に関する資料を積極的に収集しています。その集大成として、HP上に「食文化.com」を掲載し、食育だけの広報誌「食ナビ」を作成し、毎月テーマを決めて関連資料を紹介しています。やはり食に関心のある方が多いのか、勢いよく広報誌が減っていきます。嬉しい悲鳴です。

最後にパスファインダーの作成。

「食育」や他のテーマについて、大人用と子供用のパスファインダーを作成しています。内容は質問が多いテーマを中心に、子供用であれば、夏・冬休みの自由課題に、大人用は日常生活に役立つテーマを取り上げ作成しています。利用者自身が楽しみながら資料をさがすことができるこの「お役立ちチラシ」は、今後も作成していきたいと思っています。

以上の3つの事業については、帯広市図書館のHPに掲載していますので、興味を持たれた方はご覧いただければ幸いです。

最近実感していることは、様々な事業展開の中で、確実に職員一人ひとりのレファレンス力が向上しているということです。それぞれの事業はチームを作って作業を進めていますが、他のチームの良い刺激を受けつつ、新年度も利用者の心を掴む取り組みをしていきます。「役に立つぞ！帯広市図書館」と思われるように・

## こんなことしました 【2】

書を抱え、外へ出よう - レファレンス事例集の活用 -

旭川市中央図書館 稲荷 桂司 さん

昨年、旭川市中央図書館資料調査室では、『簡易レファレンス事例集 2005 年度版』を作成、発行しました。2005 年度に受けたレファレンス事例 180 件を紹介しています。一覧性を重視して、2 行程度で解説できる内容にするために、多岐にわたる複雑な事例は除いてあり、また単純に辞書を引けば済むような事例も省略しました。

このような事例の記録を始めるには、職員間のレファレンス情報共有をもっと進めたいという思いがまずありました。記録は従来も行っていたはいましたが、書式が 1 事例につき A 4 用紙 1 枚というもので、大半を占める簡易な事例では面倒になるため、かえって記録がなされないという問題があったのです。また、せっかく記録されてもバインダーに綴じ込まれるばかりで参照性が悪く、労力の無駄遣いにもなっていました。

そこで記録の中心を簡易事例に置き、1～2 行でメモをとれる書式を作成、記録する労力と心理的ハードルを低くすることで、まずは事例を記録しやすくし、これをもとに内容を整理・分類の上、Excel で入力・配列して事例集ができあがりしました。

分類は NDC の第一次区分を事例に当てはめて行いましたが、厳密ではない上に判断のブレもあり、文学者の伝記事項が 2 になったり 9 になったりしています。このような粗い記録では参考程度にしかならず、その上、一般の人が使えるようなツールでもありません。にもかかわらず当初の目論見を超えて、このような形で外部に向けても発行することになったのは、レファレンス業務や資料調査室が市民にあまり知られていないという危機感からでした。一般フロアと切り離された 2 階にある資料調査室は、ただでさえ利用者にとって敷居の高い部署です。そして、図書館のレファレンスサービスについて全く知らなかったり、たとえ知っていても、こんな簡単なことを聞いてもいいのだろうかとか、逆に聞いても無理だろうと考え、来室されない方も多いと思います。この事例集には、簡易とは言え、素朴な疑問からそこそこの専門的なレファレンス事例まで幅広く収録されています。自館解決の例もあれば、他機関を紹介したり、どうしても回答できなかった事例もあります。これを見ることで、利用者には「こんなことでも聞いていいんだ」と感じてほしいと思っています。

また、これは市役所の内部に対しても図書館業務のアピール材料にもなるのでは、と考えています。役所内でも職員が図書館の利用登録をしていなかったり、小説や雑誌を借りるところとしか考えていない人もいます。そこで、今までなら庁内メールなどで書類を送るだけだったところを、極力手渡しに行き、お土産代わりにこの事例集を置いていくようにしました。

今後は図書館の利用案内や『図書館通信』などをセットにした「図書館員お出かけパック」のようなものを用意して、外出する際には公私を問わず持ち歩き、会った人に配るようなことができればと思っています。図書館を巡る状況が悪化の一途にある現在、図書館員も外へ打って出ることが必須になってきていると思います。民間の営業マンが日ごろから資料を持ち歩いたり、縁者や知人を頼ってノルマをこなしているような努力を、我々図書館員も行ってよいのではないのでしょうか。まして我々は物を売りつけるのではなく、無料でサービスを提供するのです。なんら借りややましさを覚える必要はありません（笑）。

人は減る、仕事は増えるという状況で、よりいっそう内向きのベクトルが強まっていますが、あえて言いましょ、「外へ出よう」と！（ちなみにわたし個人は、整理や目録作りが大好きな内向き人間です）

# レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介

(2006年10月～2007年2月分)

論題(記事名) 著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館 NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 ほん・本・Book 図書館のプロが教える 調べるコツ 誰でも使えるレファレンス・サービス事例集 浅野高史+かながわレファレンス探検隊〔著〕鈴木均 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会 編 (通号 358) [2007.2] p76 - 78
- 2 現場からの提言 レファレンス協同データベースへの招待状 宮川陽子 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 58(5) [2007.1] p284 - 288
- 3 児童奉仕の実際 レファレンス(特集第26回(2006年)児童図書館員養成講座報告) 大崎真希 『こどもの図書館』 児童図書館研究会〔編〕 (54)1 [2007.1] p7 - 8
- 4 『専門情報機関総覧』2006年版特徴と機能 青柳英治 『情報管理』 科学技術振興機構情報事業本部 編 49(9) [2006.12] p483 - 488
- 5 IFLA ソウル大会参加報告 レファレンスサービスをめぐって(小特集:IFLA ソウル大会に参加して) 北川知子 『カレントアウェアネス』 日本図書館協会 / 国立国会図書館関西館事業部図書館協力課 編 290[2006.12.20] p2 - 3
- 6 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ11) 地図で探す 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (74) [2006・2007.12・1] p22 - 25
- 7 サービス実践講座 レファレンス・インタビューのプロになる! コーチング活用術 看護現場に学べ! ご報告 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (74) [2006・2007.12・1] p57 - 59
- 8 三多摩レファレンス探検隊の実際レファレンス通信講座 大宅壮一文庫・見学会ご報告 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (74) [2006・2007.12・1] p60 - 63
- 9 投稿 FORUM『これからの図書館像』とレファレンスサービス 大庭一郎 『図書館雑誌』 日本図書館協会 編 100(11) (通号 996) [2006.11] p768 - 771
- 10 健康・医療情報提供のレファレンスと役立つツール(特集:医療情報と図書館) 中山康子 『Lisn』 キハラマーケティング部 / キハラ株式会社マーケティング部 編 (130)[2006.11] p5 - 8
- 11 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ10) 地方自治体の情報を探す 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (73) [2006.10・11] p20 - 23
- 12 地域活性化(ビジネス)支援を始めて(特集:地域に役立つ図書館政策とは) 坂本 睦美 『みんなの図書館』 教育史料出版会 / 図書館問題研究会 編 (通号 354) [2006.10] p7 - 14



# NEWS

## 1 貸出文庫目録をホームページで公開！

今まで市町村の皆さんには、冊子でご利用いただいていた「貸出文庫目録」を当館のホームページ上に公開しました。書名・著者名のリストが一覧で見られるようになりました。

貸出文庫の申込みの際には、ぜひご活用ください。

当館ホームページ > 図書館向け > 貸出文庫目録

## 2 一般件名「らい」を「ハンセン病」に修正

当館所蔵資料の「らい」となっていた一般件名を「ハンセン病」に修正しました。ハンセン病は、かつて「癩(らい)」、「らい病」と呼ばれていましたが、1996年(平成8年)90年余の長きにわたる「らい予防法」が廃止されて以来、医学・法律・歴史的用語として使用される表記、表現を除いて、すべて「ハンセン病」と記されるようになりました。現在、市販MARCで件名は「ハンセン病」を採っています。件名修正の経過については、次のサイトをご覧ください。

関連新聞記事 <http://www.asahi.com/culture/news.culture/TKY200702030251.html>

日本図書館協会見解 <http://www.jla.or.jp/kenkai/20070205.pdf>

## 3 「医学情報を詳しく解説する連続講座」第3回に参加！

横浜市中央図書館の医療情報コーナーOPEN記念イベント「医学情報を詳しく解説する連続講座」の第3回「横浜市大医学情報センターの使い方」が1月28日(日)に開催され、当課から宮本が参加しました。講座では、医学関係資料の解説、医学情報のデータベースの有効な使い方など説明がありました。翌日には、東京都立中央図書館へ伺い医療情報サービスについての説明を受けました。とても得ることの多い充実した内容の2日間でした。

## 4 北海道大学附属図書館 新サービスの試行提供開始！

昨年12月より「新電子ジャーナルリスト」「学術論文ナビゲートサービス(論文ナビ)」が試行されています。「新電子ジャーナルリスト」は、フリージャーナルを多数登載し20,000タイトル以上の電子ジャーナルが利用可能となっています。「学術論文ナビゲートサービス」は、簡単な操作で論文FullTextを入手することができます。

北海道大学附属図書館 [http://www.lib.hokudai.ac.jp/item/ej/newservice\\_start.html](http://www.lib.hokudai.ac.jp/item/ej/newservice_start.html)

## 5 著作権法改正案が2006年12月22日に公布 2007年7月1日から施行！

著作権法案が昨年2006年12月15日に成立し、12月22日に公布されました。一部の条文を除き、2007年7月1日から施行されます。著作権の一部を改正する法律の制定についての詳細は、文化庁のホームページでご確認ください。

文化庁 [http://www.bunka.go.jp/1tyosaku/chosakukenhou\\_kaisei.html](http://www.bunka.go.jp/1tyosaku/chosakukenhou_kaisei.html)

## 6 国立国会図書館の複写・貸出申込 ゆにかねっと経由申込が3月末で中止に！

国立国会図書館では、一部システム運用の中止に伴い、ゆにかねっと(総合目録ネットワーク)からの複写・貸出の申し込みが3月末までとなります。4月からは、NDL-OPACのみでの申込みが可能です。詳細は、ホームページでご確認ください。

国立国会図書館 [http://www.ndl.go.jp/jp/library/library\\_ndl\\_news.html](http://www.ndl.go.jp/jp/library/library_ndl_news.html)

## 『Do - Re』 そもそもの記

北海道立図書館北方資料部長 樋山 ミチ子

創刊の顛末については、No.8(通巻 12 号)で聞かせて!「Do-Re」っての記事(p9)で簡単にふれています。繰り返すことにはなりますが、今、参考調査課を離れた身で当時のことを思い出しながら綴ってみたいと思います。

きっかけは、『しらべま専科』(都立多摩図書館発行)を“発見”したことです。平成4年創刊のレファレンス広報誌は、いきいきとして親しみやすく、私には強いオーラを感じさせました。周辺の職員に“これ!”“どう?”という感じで見せたものでした。いつかは当館でもとまで思ったかどうかですが、かつて参考調査課で文献目録などをつくる仕事もしていたので、目に付いたのかも知れません。強い印象がいつまでも残りました。

それから幾星霜(?)。平成11年4月に再び参考調査課配属となり、電話やファクシミリなどで依頼があったレファレンス回答をこなす日々となりました。

翌年の初夏だったと思いますが、『しらべま専科』を課員に示し、頭の中のコンセプトを提案したところ、何の反対もなく(質問もなく?)全員一致であったという間に発行決定となりました。「レファレンス事例集」の形は他館で発行しています。そうではないものをつくるということだけははっきりしていました。また、来るのを待つ課ではなく、こちらから一歩踏み出し、市町村図書館と双方向でレファレンス業務を共有したいという考えがありました。

それからは、どういうスタイル(全体構成、造本・装丁)にするか、イメージの表紙の色を探して紙屋さんへ、表紙のデザインは?発行頻度は?などバタバタとしたうれしい時間が過ぎました。愛称が『Do-Re』と決まって、編集長(Mさん)が現在の表紙の元になるゲラを提案してくれた時、気分は“もう出来た!”と。各連載記事の小さな決まりごとは“まあ、それぞれ分担者が書いてみて...、それからで(大丈夫)”と皆は鷹揚で冷静なものでした。ただ、こだわったのは、1頁に原稿1つとすることでした。最初から読み込まなくても、どの頁からでも目に触れて欲しいというのがその理由です。そして、号を重ねたいつかは、各連載記事の抜刷を作成するという夢もありました(この時はまさに“大きな夢”だった。14年11月にこんなのをきましたを発行し新聞に報道されたことで、一般道民から寄贈依頼の電話鳴りやまず。マスコミの威力を知ることとなる)。平成12年10月、テスト版No.1が完成。

その後の『Do-Re』の歩みについては、読者の方の評価に委ねるとして、課の中では、普段の調査業務と広報誌執筆とがリンクしたハリのある日常になったような記憶があります。読者からの「読んでるよ!」の声掛けがありがたく、また、歴代編集長の努力もありました。俗に、(3号で潰れる)3号雑誌という言葉がありますが、それにもならずなんと31号までを発行できたのは、本当に嬉しいの一言です。

私見めきますが、仕事は 想いがあればいつかは実現に結びつく と実感できたことが何よりも得がたい体験でした。悦びと感謝をこめて“ありがとう!”そして、“おめでとう!”。これからのことですが、従来パターンを継承するのか、これを節目に新しい領域に向かうのかなどの検証は、常に必要なのでしょうか。

『Do-Re』をご愛読くださいと、OBは願っています。

## 『Do-Re』とレファ研に関するアンケート 結果報告

1 月中旬、市町村図書館（室）を対象に本誌『Do-Re』についてのアンケートと、「市町村図書館職員レファレンス体験研修」（以下、「レファ研」と記す。）を平成 18 年 12 月までに受講された方を対象に「レファ研」についてのアンケートを実施しました。その集計結果をお知らせします。

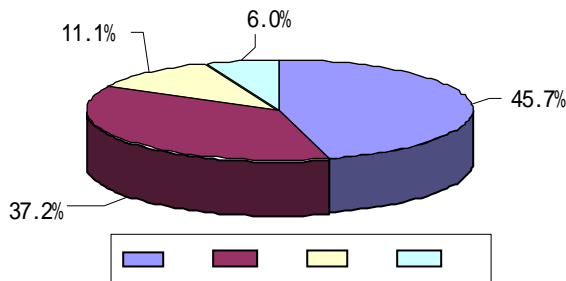
皆さんからの貴重なご意見等をもとに、本誌のより良い誌面づくり、「レファ研」の改善・充実に努めていきたいと思ひます。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

### 『Do-Re』に関するアンケート 結果報告

（対象数：245 回答数：234 回答率：95.5%） 各回答項目の（ ）内は回答数

質問 1 『Do-Re』を読んでいますか

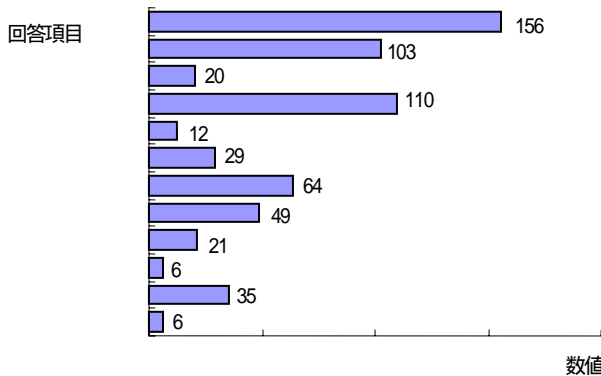
毎号読む（107） ときどき読む（87） かつて読んだことがある（26） 読んだことがない（14）  
 補足意見：Web 版になってから読みにくくなった（1）



の毎号読むが50%に満たない数値です。平成 17 年度より当館HP掲載を基本とし、市町村においては、そこから印刷して呼んでいただく形に切り替えたことについての周知がいきわたっていなかったようです。また質問 8 とも関連しますが、今後の配付方法等についても検討する必要を感じました。

質問 2 特集、記事に求めるものは何ですか（3 つまで選択）

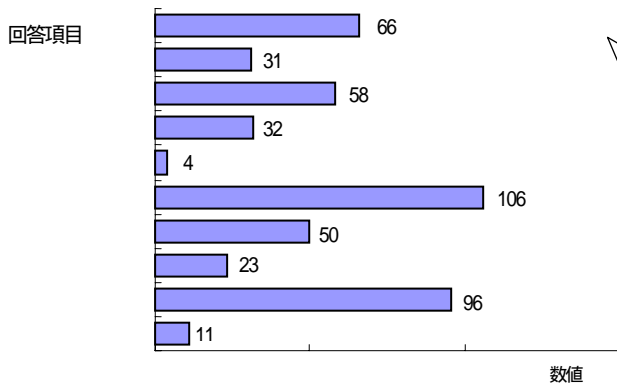
道立図書館のレファレンス事例（156）	参考図書を紹介（103）	道立図書館職員の論考（20）
道内公共図書館の情報（110）	道内大学・専門図書館の情報（12）	研修会の情報・報告（29）
レファレンスサービスの最先端の情報（64）	各種ツール（データベース）の使い方（49）	
道立図書館以外の方からの寄稿（21）	著名な専門家からの寄稿（6）	道内図書館の課題（35）
その他（6）・各種国語辞典や英和辞典等、類書の比較	・公民館図書室の実態	・今のままで充分
・道内図書館のレファレンス事例	・ボランティア等の取り組み	・道外の先進地の事例紹介



が圧倒的な数値です。次いで、と続きます。当誌の編集要項にも、「照会内容の一端を伝えるもの」、「参考図書の解題紹介」を挙げています。最近では他のコーナーに力を注いで編集している傾向にありますが、都府県立には例をみない独自のものとしての充実とあわせて、オーソドックスな事例や参考図書の紹介についても積極的に取り組みたいと思ひます。

質問 3 これまでの主な特集の中で面白かった（役に立った）ものはなんですか（3 つまで選択）

レファレンス事務処理要領（No.2）（66）	所蔵館調査（No.3）（31）	わたしのレファレンスブック（8号）（58）
市町村図書館職員レファレンス体験研修（9号）（32）		全道図書館参考調査部門研修会（13号）（4）
こいつは使える！レファレンスブック あなたの10冊北海道版（13号）（106）		読者の皆さんによる特別号（20号）（50）
図書館職員の研修（22号）（23）	相互貸借とリクエストサービスを考える（23号）（96）	
全道図書館レファレンス研修会（24号）（11）		

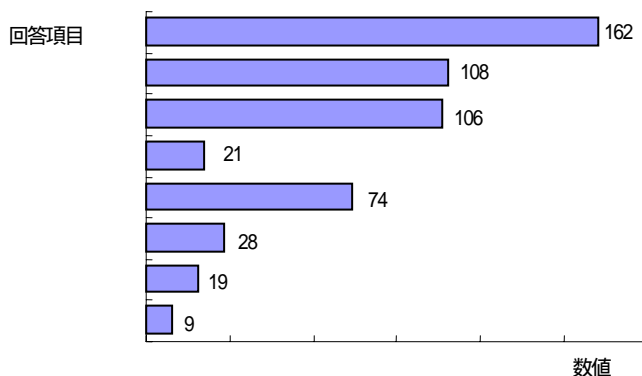


が一番の支持を集めました。この特集は、平成14年度全道図書館中堅職員研修会に参加された方々へのアンケートを集計し紹介したものです。次点が。やはり、日常業務に即した特集が求められていること実感しました。

質問4 連載の中で面白かった(役に立った)ものはなんですか(3つまで選択)

こんなのきました 参考調査課によせられたレファレンス (162)  
 市町村のみなさんからの発信 (106)  
 課員のつぶやき 日々の業務からの短信 (74)  
 News (19)

こんなのあります いちおしレファレンス・ブック (108)  
 Librarian's Box(ししょぼ) (21)  
 レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介 (28)  
 その他、特別寄稿など (9)



質問2の結果と同様に が多くの支持を得ました。次いで、と がほぼ同数となっています。「市町村図書館職員の方々とのコミュニケーションの場となるもの」を編集要項に掲げています。は皆様のご寄稿あつての連載枠です。今後ともご協力をお願いします。

質問5 文字の大きさについて

大きすぎる (1) ちょうどよい (215) 小さすぎる (4)

質問6 全体のページ数について

多すぎる (8) ちょうどよい (207) 少なすぎる (4)

質問7 カラー・ページや図版について

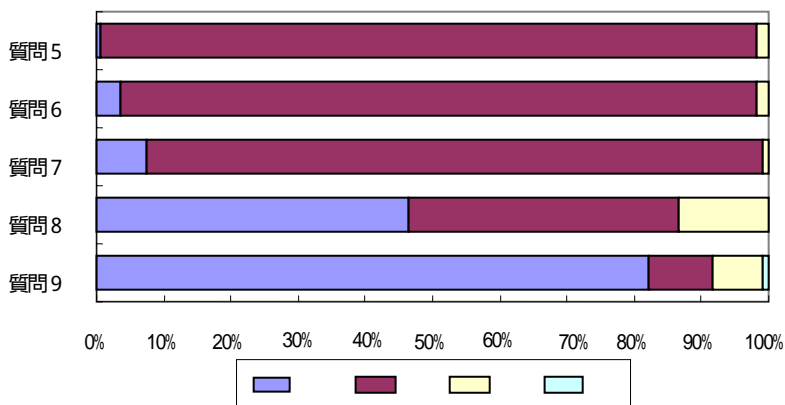
増やすべき (16) いままでよい (200) 図版などはいらない (2)

質問8 発行形態について

現物を送付 (100) Web版を基本として必要に応じ送付 (86) Web版のみでよい (29)

質問9 発行頻度について

現行(年3~4回)でよい (179) 隔月(年6回)がよい (21) 年1~2回でよい (16)  
 その他 (2) ・月1回 ・発信する情報に応じて臨時号などを出してもよいのでは



形態等については、現状のままでよしとする声が多いようですが、提供の方法については、多くの皆さんに読んでいただけるよう検討する必要を感じました。

## 質問10 その他、ご意見など

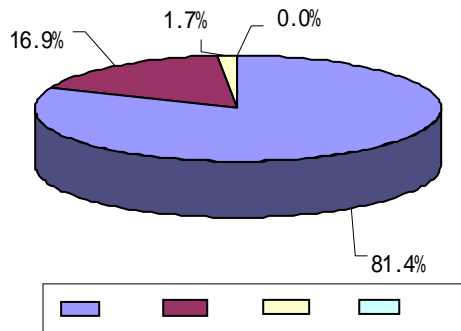
- ・Web版になってから読む機会が減りました。紙媒体のほうが職員で回覧できるので良い。以前は毎号読んでいた。(同意見 他2件)
- ・2年ほど当図書室には届いておりません。なくなったものと思っていた。(同意見 他3件)
- ・現物を送っていただいた方が、発行されたタイミングを逃すことなく職員に回覧できる。(同意見 他4件)
- ・『別冊Do-Re・本の謎をとく』という資料がとても役に立った。利用案内の参考になるものもあります。
- ・いつも楽しく読ませていただいています。これからも面白い記事期待しています。(同意見 他7件)
- ・なかなか落ち着いて読む時間がとれない。(同意見 他2件)
- ・特にレファレンスブック(ツール)の紹介等、いつも興味深く読んでいます。
- ・事例だけならA4判1枚で随時作成するだけでも良い。「道立図書館だより」のような印象である。
- ・「レファレンス」に絞ったものとして貴重です。発行頻度は内容の濃さを重要視したいので、年4回程度が良いと思う。やはり「冊子」の方が何かと助かります。
- ・Web版のみとするなら、発行を案内するメール連絡が欲しい。(同意見 他3件)
- ・Web版なら、PDFではなくHTMLにして欲しい。PDFを開くのが面倒。
- ・道立図書館からの情報発信が「Do-Re」刊行以前は少なかったが、それが改善された。道内の他の公共図書館の動向が分かり、役立っている。
- ・レファレンスに関する情報は、これだけあればいいというものではないので、とても助かっています。これからもたくさん情報を発信していただきたい。(同意見 他2件)
- ・バックナンバーは全てファイルしてあります。各市町村の実状や職員の意見を知ることができ助かっています。レファレンス事例では「こんな検索方法もあるんだ」と驚き、勉強になることばかりです。これからもたくさん事例をお願いします。(同意見 他3件)
- ・学校図書館(室)支援に関する情報があるとうれしい。
- ・参考調査課で回答できなかった事項の紹介。
- ・未解決問題について道内の司書の知恵を拝借し、その解決を図るようなコーナーがあるとよい。特にWeb版では、レスポンスの書き込みができるようなシステムだと便利。
- ・研修会や道内図書館での気になる活動報告を掲載するときは、後から詳細を聞きたいと思ったときのため、担当者名前を教えてください。
- ・文字だけで読む前に気疲れしてしまう時がある。写真・イラストなどを取り入れた方が親しみやすい。
- ・発行形態について、館によってはWeb閲覧が難しいところもあるので、ときどき(できるなら年に1回でも抄録を作成して)現物を送っていただくと良い。熱心な司書は見られるけれど、やる気の無い職員は絶対Web閲覧することは無いと思います。これからも興味深い記事をお願いします。
- ・HPでブログを始めては、
  - ・小さな町の図書館が、「こんな風に頑張ってます」的な投稿がいろいろあると参考になる。
  - ・参考となることが多く、大変ありがたい。誌面づくりの苦労がうかがえる。(同意見 他3件)
  - ・図書館ならではのニュース等とても参考になります。記事を集めるのも大変だと思いますが、長く続けていただきたいと思います。
  - ・レファレンスについては、活用方法を知らない方がほとんどです。Do-Re等を参考に利用活用等を知っていただけるようにがんばりたいと思います。
  - ・読み心えたつぷりで頼りになります。参考調査課の雰囲気伝わってきます。
  - ・「なるほど」と思う内容もあり、刺激になっております。やはり、継続が力になるのだと思います。
  - ・編集作業が大変だと思います。現在の体制でできる範囲で、そしてレファレンスに特化した「Do-Re」であって欲しい。
  - ・市町村図書館のレファレンス情報は大切です。レファレンス掲示板(Web版)などがあると、もっと活用できるかも...
  - ・経費の問題もあるから、要点を絞って、かつ判りやすく読みやすいために量が少なくてよい。
  - ・「Do-Re」継続の可否を問う質問がない。「Do-Re」作成者の努力には敬服する。
- ・道立図書館と市町村図書館をつなぐのこらない情報誌として、これからも発行されることを希望します。
- ・道立図書館に寄せられたレファレンスの項目だけでも教えてほしい。
- ・「Do-Links」素晴らしいですね。ありがとうございます。

## 市町村図書館職員レファレンス体験研修受講者アンケート 結果報告

(対象者数：60 回答者数：59 回答率：98.3%) 各回答項目の( )内は回答数

質問1 「レファ研」を受講した感想はいかがでしたか

満足 (48)      どちらかといえば満足 (10)      どちらかといえば不満足 (1)      不満足 (0)



80%以上の方が「満足」と答えていただきました。手探りではじめた研修も5年が過ぎ、それなりのノウハウも培われましたが、図書館を取り巻く環境は日々変化しています。今後も様々な角度からカリキュラムを充実し、中味の濃い研修となるよう、私たち道立図書館職員も研鑽を重ねていきます。

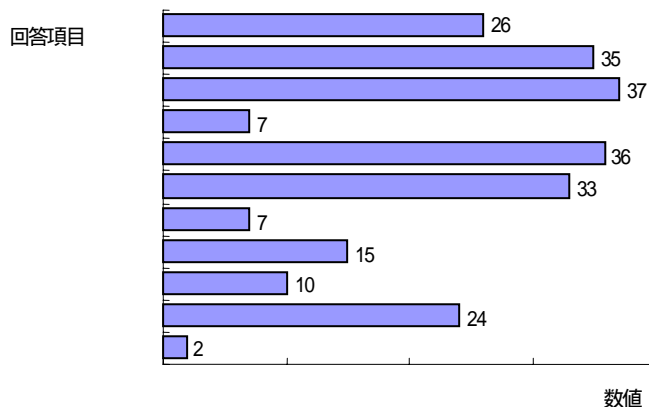
次の質問2は、質問1で、 と回答された方のみお答えください

質問2 満足できなかった理由について、該当する選択肢全てにチェックしてください

講義内容が難しすぎた (0)      講義内容が簡単すぎた (0)      講師の力量不足を感じた (1)  
 講義の時間配分が適切ではなかった (0)      研修場所が落ち着かず集中できなかった (1)  
 その他 ・資料を読めばわかることを説明されるよりも、具体例・経験を話してもらいたかった場合があった。

質問3 あなたが受けた講義の内、役に立ったと思われる科目をチェックしてください(5つまで)

参考調査課のレファレンスの流れ、相互貸借などのルール情報 (26)      基本ツール(参考図書)の評価と利用、解題などの演習 (35)  
 レファレンス演習 (37)      法令・判例や統計情報の調べ方など主題を特定した講義 (7)  
 インターネット情報の活用 (36)      レファレンス・インタビューの工夫 (33)      書誌情報の確定方法 (7)  
 地域資料の収集と活用 (15)      外部データベースの使い方 (10)      宿題(事前の課題) (24)  
 その他 (2) ・館内見学：施設を見ることができたこと。職員さんにお会いできたことも貴重な体験でした。

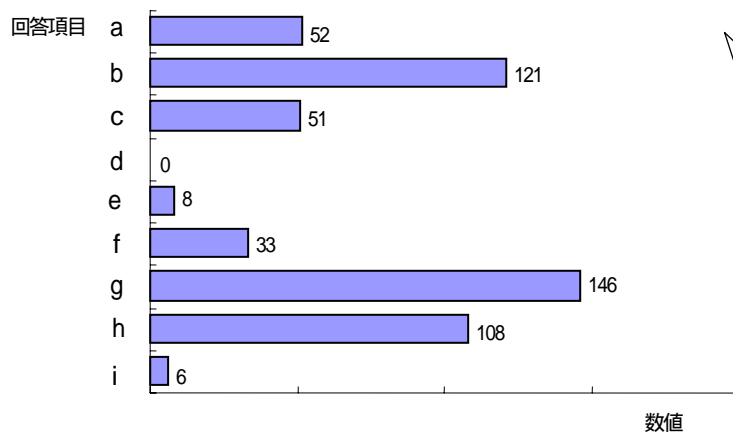


、 、 、 の順で、ほぼ同数ながら上位の支持を得ました。従来のレファレンス研修の形である演習については、参加される方の図書館規模等を勘案し問題を設定していますが、多くの評価をいただきました。  
 は新しいカリキュラムですが、当課としても特に力を入れているものです、構成などさらに工夫をしていきたいと思えます。  
 は、より積極的に参加していただく意味も込めた当研修の特徴です。  
 については、今後も北方資料部との連携を深め対応します。

質問4 研修後の成果としてどのようなことを感じますか。選択肢から該当するものを3つ選び、( )に優先順の番号を付けてください

集計にあたり、回答の優先順位1位、2位、3位を各々5点、3点、1点と点数付けし数値とした。

- a. 寄せられる問い合わせについて、自分(自館)で解決できることが多くなった (52)
- b. 道立図書館を身近に感じるようになり、照会しやすくなった (121)
- c. 専門情報を得るきっかけとなり、自己研修を積極的に行うようになった (51)
- d. 他の市町村図書館への相互貸借・協力レファレンスをより多く依頼するようになった (0)
- e. 地域の住民に対してレファレンスサービスのPRを積極的に行うようになった (8)
- f. 館内(同じ職場)で職員同士の情報の共有を心がけるようになった (33)
- g. 自館の参考図書を見直し活用するようになった (146)
- h. インターネット情報をレファレンスに活用するようになった (108)
- i. その他 (6) ・郷土資料の収集と活用を積極的に行うようになった  
・自分の力量を把握できた。レファレンスを受ける際、少しゆとりができた。

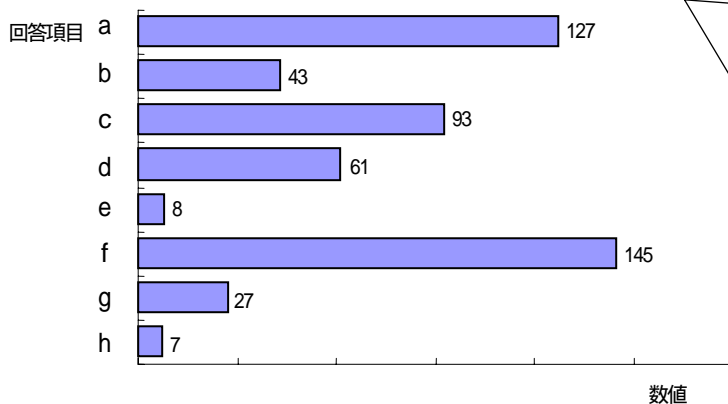


g が一番多い数値となりました。やはりレファレンスサービスの基本は自館の資料をよく知ることにあります。当研修がそのきっかけとなったことはなによりです。また b を選ばれた方が多くいらっしゃることは、当研修の大きな目的でもあります。h は、使いこなすことがますます必要になっています。「Do-Links」の充実を中心に関連情報の提供に努めていきます。

質問5 今後「レファ研」はどのように開催するべきだと思いますか。選択肢から該当するものを3つ選び、( )に優先順の番号を付けてください

集計にあたり、回答の優先順位1位、2位、3位を各々5点、3点、1点と点数付けし数値とした。

- a. 現行の受講者が希望する日程・内容でマンツーマンの研修を継続する (127)
- b. あらかじめ道立図書館で期日を決めて行う (43)
- c. 道立図書館でテーマ(カリキュラム)を設定し、そのテーマ毎に深く掘り下げたものを行う (93)
- d. 市町村(管内)を開催場所にして行う (61)
- e. 講師となる職員の資質を向上させる (8)
- f. 市町村図書館の実情を組み入れたカリキュラム内容にする (145)
- g. 受講者の対象を大学・学校図書館職員やボランティアなどにも広げる (27)
- h. その他 (7)



f が一番多い数値となりました。もともと当研修は、参加される方の実状を組み入れるよう努力していますが、今後も実状の把握をしっかり行い、ご希望に沿うよう努めていきます。また、c の希望も多く寄せられました。当館で主題を特定して開催するののも一つの方法かも知れませんが、管内の図書館協議会(研修会)と共催するなど検討していきたいと思っております。

## 質問6 その他、ご意見など

- ・レファレンス関連情報の発信と充実には是非とも積極的に取り組んでいただきたい。
- ・北方資料の内容が見られてよかった。
- ・希望に沿ったカリキュラムで、講師の方々の熱心な指導をマンツーマンで受けることができ充実した。これから、もっと幅広く図書に係る人々に受講の機会を設けることが、各市町村図書館(室)の向上につながると思う。
- ・ほとんどの講義が大変ためになり、その後の仕事に生かすことができた。ただもう少し内容が濃くないと、あまり受けていても役立てることができないと思う講義もあった。
- ・とても参考になり参加してよかった。
- ・研修の際は親切な対応をしていただきありがとうございました。
- ・大変充実した内容で、再度受講したいと思う程です。今後も継続してください。
- ・「道立図書館に頼れば何とかなるだろう」とある意味では無責任なレファレンスの受け方をしていたものが、この研修でお互いの現状がわかり、地に足のついたレファレンスができるようになった。相互理解は大事だ。
- ・大変参考になった。
- ・希望したプログラムにより、知りたかった情報を得ることができた。ネットを利用したレファレンスについて、長所・短所を教えていただいたことで、利用に対する不安が消えた。
- ・図書館員として貴重な経験をさせていただいた。
- ・レファレンスについてあらためて勉強できる機会が少ないので、研修を受けることができて良かった。今後もぜひ続けてください。
- ・その後の仕事に大きな影響を与えていただいた。ただし、マンツーマンでなくてもできるテーマについては、講義式にして多くの職員に聞いてもらうのもいいと思う。
- ・電話や文書等でしか接することのできなかった職員の方々と直にお会いし学ばせていただいたことは、本当に貴重な体験となりました。職員の方々の図書館に対する深い思い入れをひしひしと感じ、また効率よく資料を整理されていることに感嘆いたしました。またこのような機会がありましたら是非とも参加させていただきたい。
- ・2年間のブランクがあり、不安でしたが道立での研修のおかげで、何とかできるかもしれないと希望の光を見出すことができた。
- ・研修の成果を生かしてゆきたい。
- ・自分のスキルアップの必要性を目の当たりにした。今後がんばりたいと意欲的になれるきっかけになった。
- ・とても勉強になり参加できたことを嬉しく感じている。ただ、もう少し時間に余裕があればいいと感じた。
- ・自分の足りない部分を自覚できたり、市の図書館では無いような道立図書館ならではのレファレンス内容やツールを知ることができたりと、大変勉強になった。職員の負担は多いと思いますが、こういった研修の機会は多い方がよい。
- ・日常業務に若干の自信を持って取り組むことができるようになった。テーマを変えて再度受講することができれば。
- ・外部データベースの使い方などは、なかなか利用する機会がなく、発展させることができませんでしたが、常に情報を活用できるようにしておかなければならないことを再確認する大事な機会となりました。
- ・参考図書の選び方が参考になった。その後レファレンスに活用して目を通すことが多くなった。今まで保存しっぱなしになっていた古い資料も「書架の風通しをよくして常に新しい情報を」というアドバイスを参考に思い切って手をつけることができるようになった。図書館に必要な資料を見極めるには、勉強と情報収集が大切だと感じた。
- ・大変勉強になるので、一度になるべく多くの人が研修できるような方向に変えた方がよい。
- ・スキルの向上や他との情報交換ができるなど、より実益的な受けられればと思う。
- ・自館資料に精通することの必要性を感じた。来年度も受講したい。
- ・インターネット情報の活用の講義がとても勉強になり、その後のレファレンスに役立った。今後もスキルアップのために研修を受講したい。
- ・宿題はレファレンスの練習になり、また自館の参考資料を見直すよき機会になりました。またそのような問題を出していただけたらと思います。情報検索リンク集はとても便利です。
- ・レファレンスにインターネット情報を活用することが増え、時間が短縮できる確かな返答が可能となった。
- ・大変良い勉強になった。
- ・リンク集の解説をいつの日か聴きたい。
- ・研修でたくさん質問に答えていただき、今の仕事に大変役立っている。今まで遠い存在だった道立図書館が身近に感じた。
- ・マンツーマンでカリキュラムも合わせて頂けたので非常に有意義だった。郷土資料についての研修(収集・整理・活用・レファレンス等について)があれば、ぜひ受講したい。



ご協力願います！！

1 お問い合わせについて

メールレファレンスについて、指定の「件名」をご記入ください。(図書館名と担当者名も忘れずに)

「典拠」を具体的に記してください。(メール、FAX とも)

~利用者から質問内容をよく聞き取ることが、求められる情報の確実な提供につながります。

「典拠」欄には、「利用者から」とか「インターネットによる」ではなく、具体的な情報源を記してください~

2 その他

メールレファレンスの回答について、お礼のメールは不要です。また、再度質問をメールで行う場合は、当館の担当者(回答者)名を記してください。

## 編集後記

あっという間に年度末。毎年、年末年始よりも年度末の方が1年の節目を感じます。今号では「News」を担当し記事を集めるなかで、青空文庫(インターネットの電子図書館)が著作権延長(50年から70年に)の反対署名を行っていることを知りました。図書館にとって著作権は切り離せない問題です。今後も著作権問題の動きには注目していきたいと思っています。(え)

今号の「こんなにあります」で調べていた時に分かった事ですが、各新聞記事によると、近藤信司文化庁長官や昨年自民党総裁選にも出馬した麻生太郎外務大臣も昔からの日本漫画ファンだそうです。特に麻生外相は政界一の漫画好き自認していて、漫画外交を理解してもらうために外務省内でお気に入りの漫画を職員に薦める毎日だとか。(T)

やりたいことは山ほどあっても、相変わらず目の前の業務に追われる日々を送っていました。しかし、今回の皆さんのアンケート結果を見て、より充実した情報提供をしていかなければと再認識し、今年度あとわずか、もうひとふんばりしようと思います。(N)

原稿執筆に思いの他苦労した今回のDo-Reでした。いかにわかりやすく、過不足無く書くかは永遠の課題です。原稿の手直しを続けていくうちに、日はどんどん長くなっていきました。春は近いですね。(や)

今年度の最終号をお届けします。アンケートなど市町村の皆様からのご協力に感謝します。皆様からの叱咤 and 激励に支えられて...頑張ります。(S)

編集が遅れ年度末の発行となってしまいました。前号に続いて創刊30号特別企画として、先にご協力いただきましたアンケート2種の結果報告と北方資料部長(創刊時、参考調査課長)の寄稿を掲載しました。また、今号から新連載として「こんなことしました」という市町村を中心としたレファレンスサービスに関連した事業などを紹介するコーナーを始めました。同コーナーは、かつて旭川市(23号)、厚岸町、留辺蘂町(ともに26号)にご協力いただいていた経過がありますが、今後は連載としていきます。アンケート調査に寄せられたご意見は、少数なものも含めて、真摯に受け止めたいと思います。道立図書館の位置づけ、存在意義を再確認して、レファレンスサービスの向上に努めます。(宮)



*Do - Re*(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の  
略から名付けました。  
しかしながら  
“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

---

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## *Do - Re*

北海道立図書館レファレンス通信 27(通巻31号)

発行年月日 平成19年3月14日  
編集 北海道立図書館参考調査課  
発行 北海道立図書館  
〒069 - 0834 北海道江別市文京台東町41番地  
TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906  
<http://www.library.pref.hokkaido.jp>

---